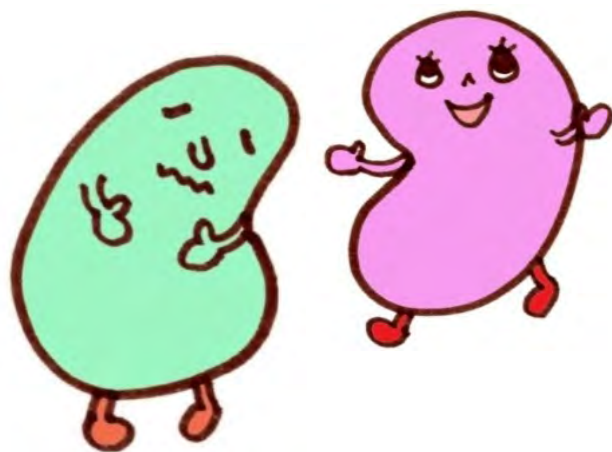


熊本市のCKD対策



熊本市健康福祉局 保健衛生部
健康づくり推進課
副課長 谷 昭子

本日の説明内容

- 1 市のプロフィール
- 2 CKD（慢性腎臓病）とは
- 3 CKD対策の背景
- 4 CKD対策の取組(2009～2014)
- 5 CKD対策の結果

熊本市のプロフィール

- ・人口 (H26年) 740,204人
- ・面積 389.54 km²
- ・平均気温 16.9 °C
- ・平均降水量 1985.8 mm
- ・高齢化率 (H26年) 23.5%
- ・合計特殊出生率 (H26年) 1.50人
- ・平均余命 (H22年) 男性80.9歳
女性87.1歳

市の抱える健康課題

熊本市は、年間平均気温16.9°Cと温暖でまた、74万市民の水道水源を全て地下水で賄っている。これは人口50万人以上の都市としては日本唯一である。

このような水の豊かな熊本市では透析導入者数が全国的に最も高い水準にあった。

City of Kumamoto outline
熊本市の概要

● 区役所の位置
※地図上の表示は小学校校区

北区
北區役所 (旧・熊本総合支庁)

西区
西區役所 (旧・西隈の森センター)

中央区
市役所本庁 (中區役所) (1~3階)

東区
東區役所 (前設)

南区
南區役所 (旧・豊島総合支庁)

腎臓の働き



● 尿をつくる

血液をろ過し、体の必要なものは体内に、不要なものを尿として体外に排出する

● 血圧をコントロールする

● 骨を強くする

ビタミンDを活性化させる

● 造血ホルモンを作る

エリスロポエチンという造血ホルモンを分泌して骨髄に赤血球を作らせる

CKD（慢性腎臓病）とは

急性糸球体腎炎
慢性糸球体腎炎
IgA腎症
糖尿病性腎症
腎硬化症
痛風腎・・・etc.



Chronic Kidney Disease

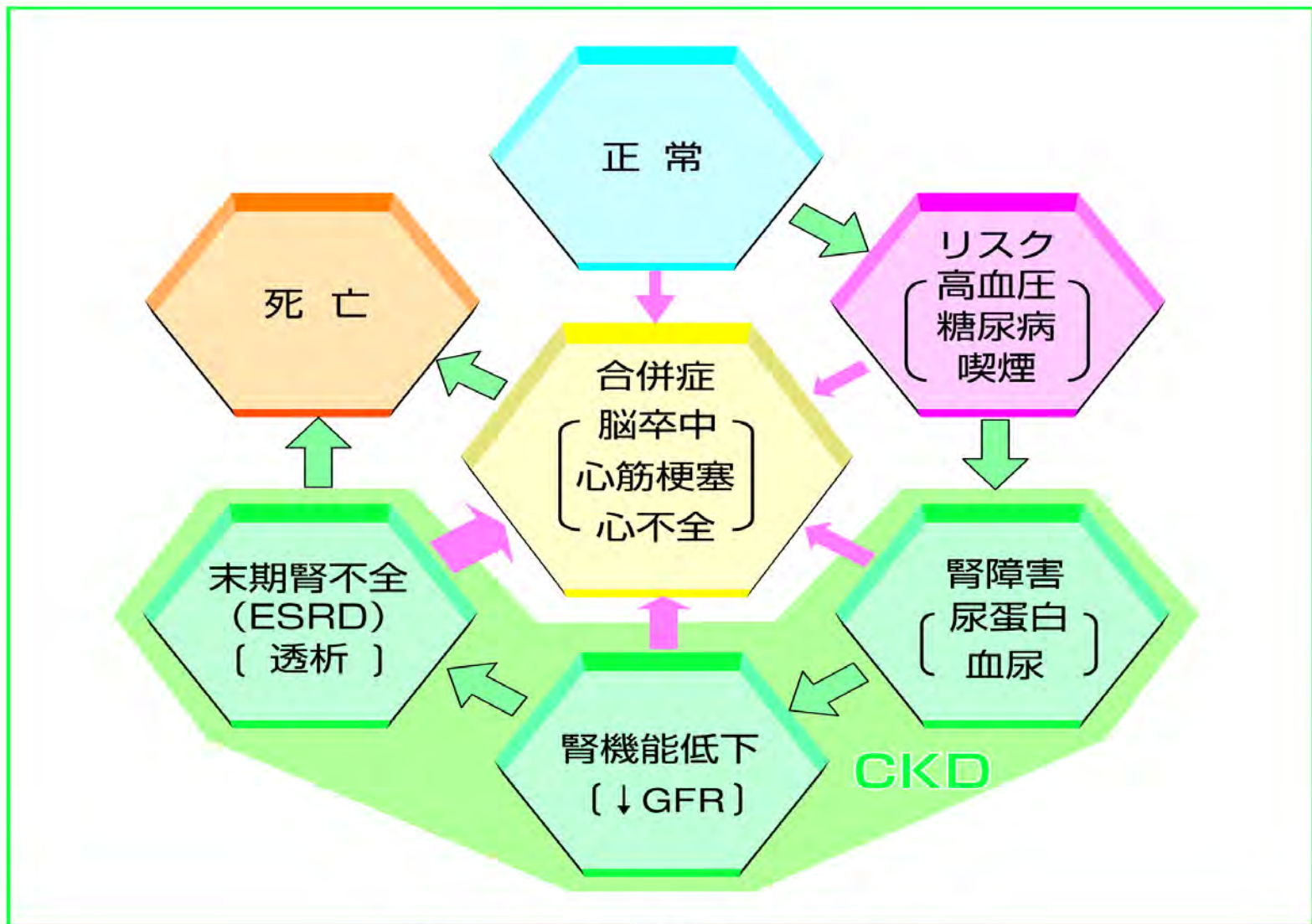
- ★患者さんに理解しやすい！
- ★専門医でなくても理解しやすい！

CKDの定義

- ① 尿異常，画像診断，血液，病理で腎障害の存在が明らか。
特に**蛋白尿**の存在が重要
 - ② 糸球体ろ過量（GFR※）
<60mL/分/1.73m²
- ①,②のいずれか、または両方が**3ヵ月以上持続する**

※GFRとは糸球体ろ過量のこと、「クレアチニン値（血液検査）、年齢、性別」を加味した計算式で推算することができる。この推算したGFRを「eGFR（推算GFR）」という。

なぜ、CKDは重要なのか



CKDの発症と進行の概念

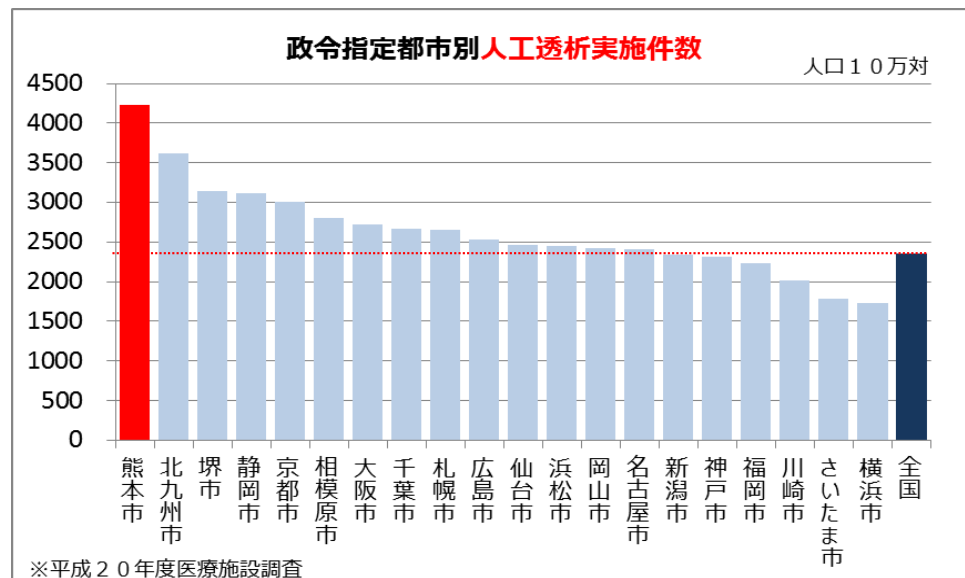
CKD対策の背景

・本市の人工透析導入者数は人口比で**全国平均の1.47倍**と最も高い水準にあり、新規透析導入者は**年間295人**に上っていた。

・CKDが死因の上位を占める**心血管疾患の重大な危険因子**であることが判明

・**予防、治療が可能**になった

・自覚症状がなく、**潜在患者が数多く**いることが予測された
(約7万5千人のCKD患者)



CKD対策 準備期

- ・平成17年～ 国民健康保険課での医療分析
→ 腎不全が全体の6%、県より10年早く人工透析開始
- ・平成18年～ 糖尿病予防プログラム・行動計画 → うまく動いていない状況。



担当者の新たな熱い思い！！
「人工透析患者の導入を減らす」

CKD対策の検討を始める！



平成20年10月 活動開始！



熊本市内腎臓専門医、医師会理事へ訪問

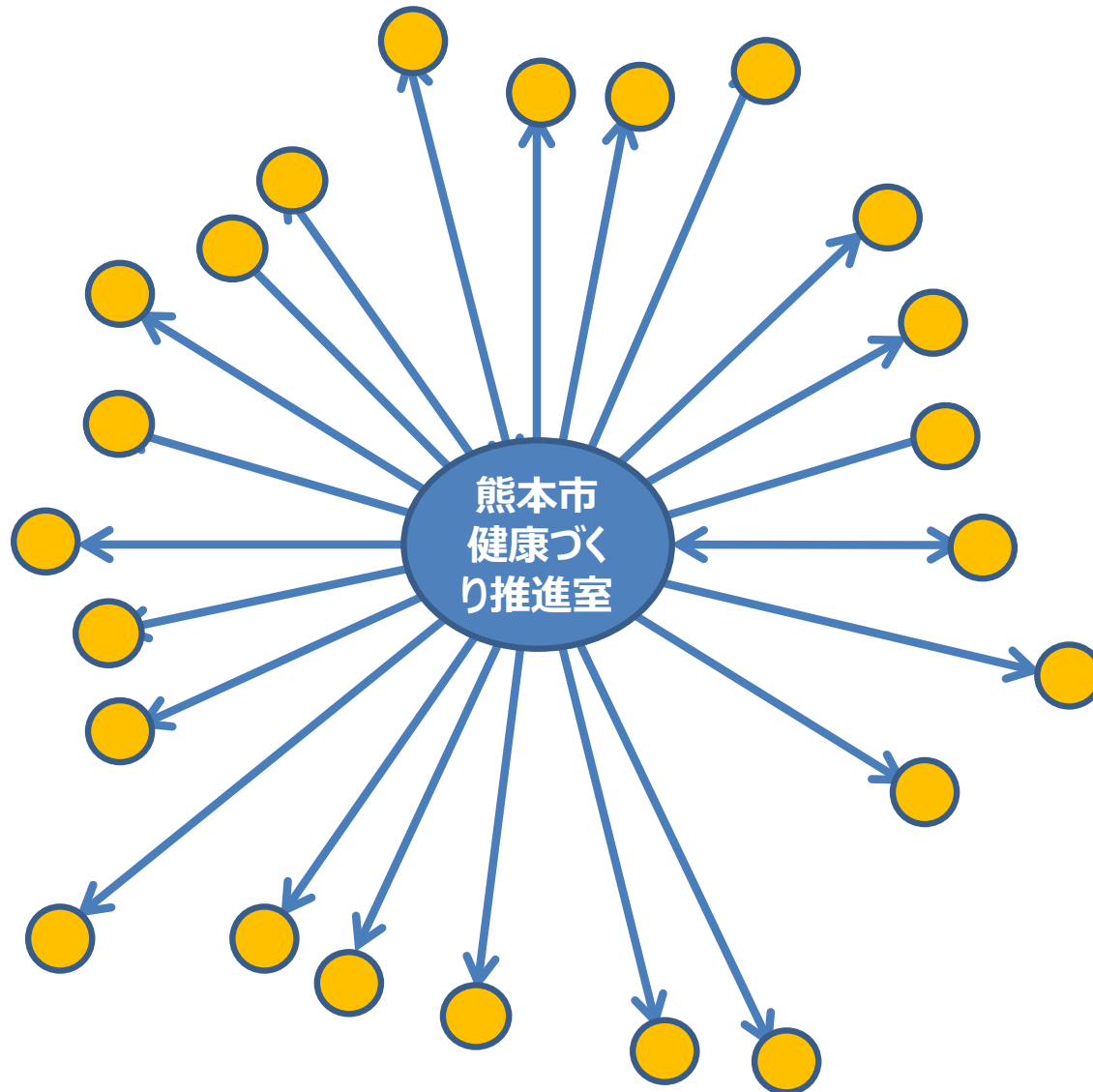
- 熊本市民病院腎臓専門医と代謝内科専門医 訪問
 - 熊本市医師会特定健診担当理事 訪問
- ↓
- 公的病院腎臓専門医、病診連携協力医
キーパーソンインタビュー

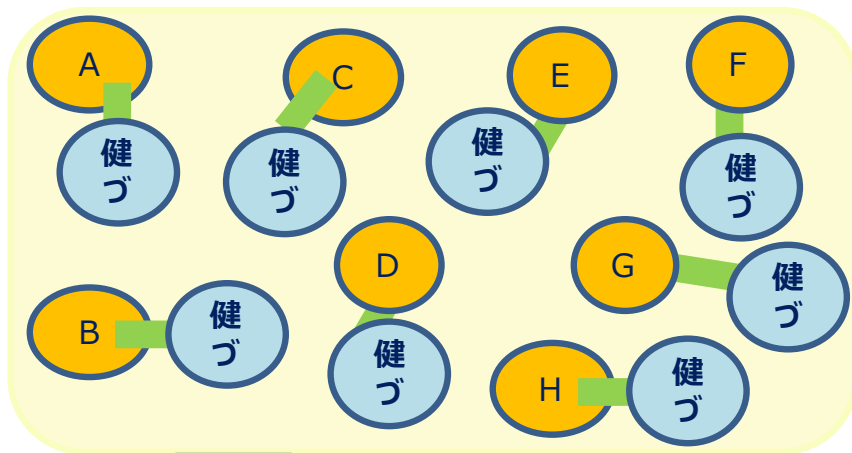
関係機関へ直接訪問、荷電、学会出席

<関係機関・団体>

熊本市医師会、熊大代謝内科、熊大薬学部、熊大循環器内科、全国慢性腎臓病協会、熊大小児科、熊本市医師会ヘルスケアセンター、熊本県総合保健センター、熊本県済生会健診センター、熊本県農協、熊本市公的病院連絡会、厚生労働省、熊本県栄養士会、熊本県国民健康保険連合会、熊本県看護協会、熊本市地域医療センター、熊本市地域包括支援センター協議会、熊本市教育委員会健康教育課、熊本県移植コーディネーター、熊本県薬務衛生課、浜松市保健所、高知市保健所医師、日本腎臓財団、福島県立医大、筑波大学医師、日本腎臓学会、日本高血圧学会、日本公衆衛生学会、産業看護研究会、5保健福祉センター

公的病院専門医、病診連携協力医、各関係機関・団体との 当初の関係図



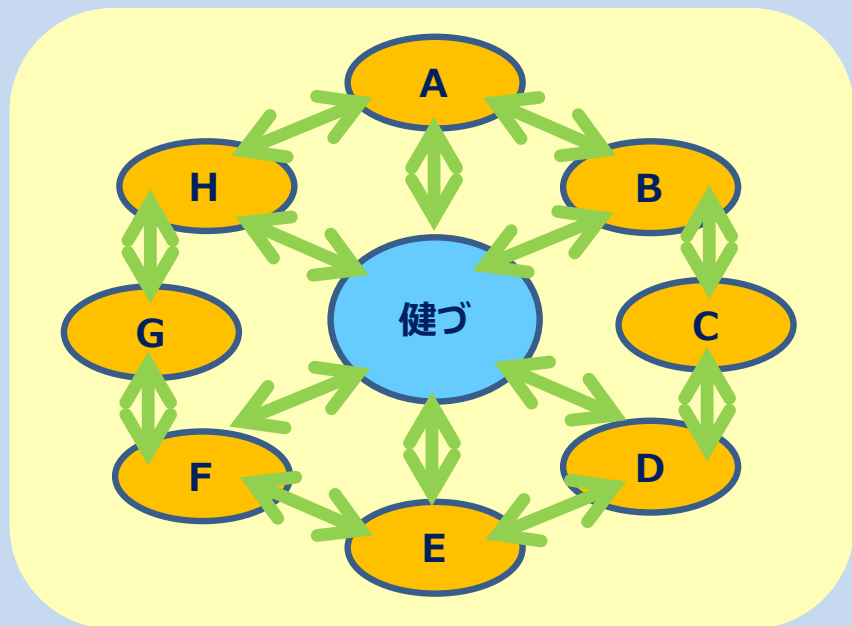


健康づくり推進室

(現在：健康づくり推進課)
 と医療機関等との直接結合は
 できたものの、まだ力を発揮できて
 いない状態（ベクトルは様々）



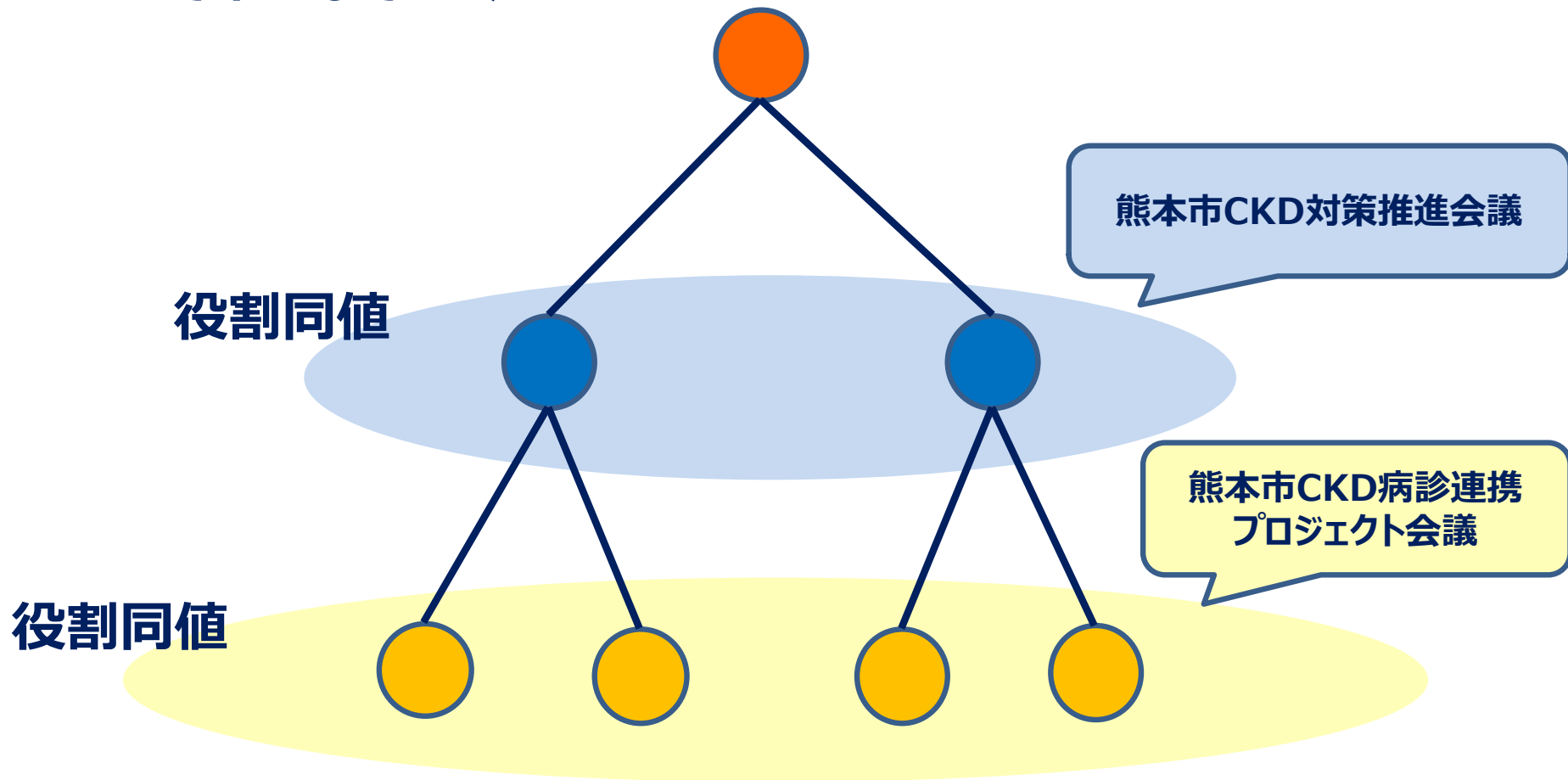
構造化



構造同値

同じ価値、同じベクトルを持った集
 合、構成員が入れ替わっても変化
 しない集団を作った！

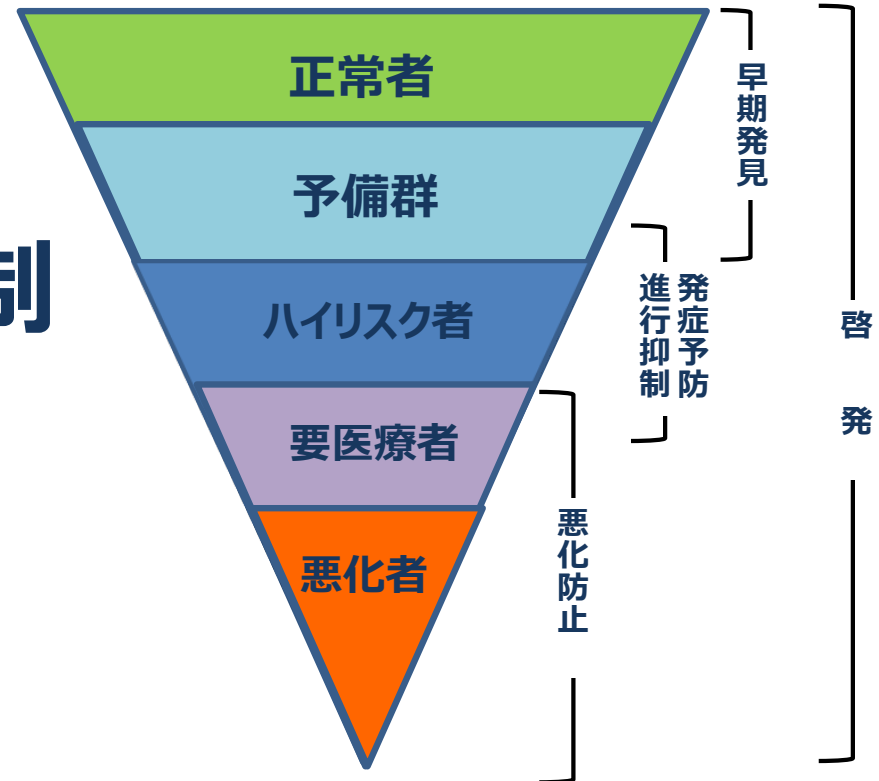
構造同値になった集団を役割同値しているところとつなげて
会議を行い、CKD対策について意見を交え、取組み内容に
ついて確立していった



方法

CKD対策の取組み（4本柱）

- 啓発・早期発見
- 発症予防・進行抑制
- 悪化防止
- 推進体制の整備



■ 啓発・早期発見

① 各種啓発媒体



バスカード



懸垂幕

■ 啓発・早期発見

- ② 市主催のイベント 37回 約4万人
- ③ 関連講演会 24回 約3千人
- ④ 各区啓発 2,350回 約7万人



糖尿病学会イベント



競輪場でのイベント



動物園でのイベント

■ 啓発・早期発見

⑤ ホームページでの啓発

⑥ 食環境整備



CKD啓発ホームページ



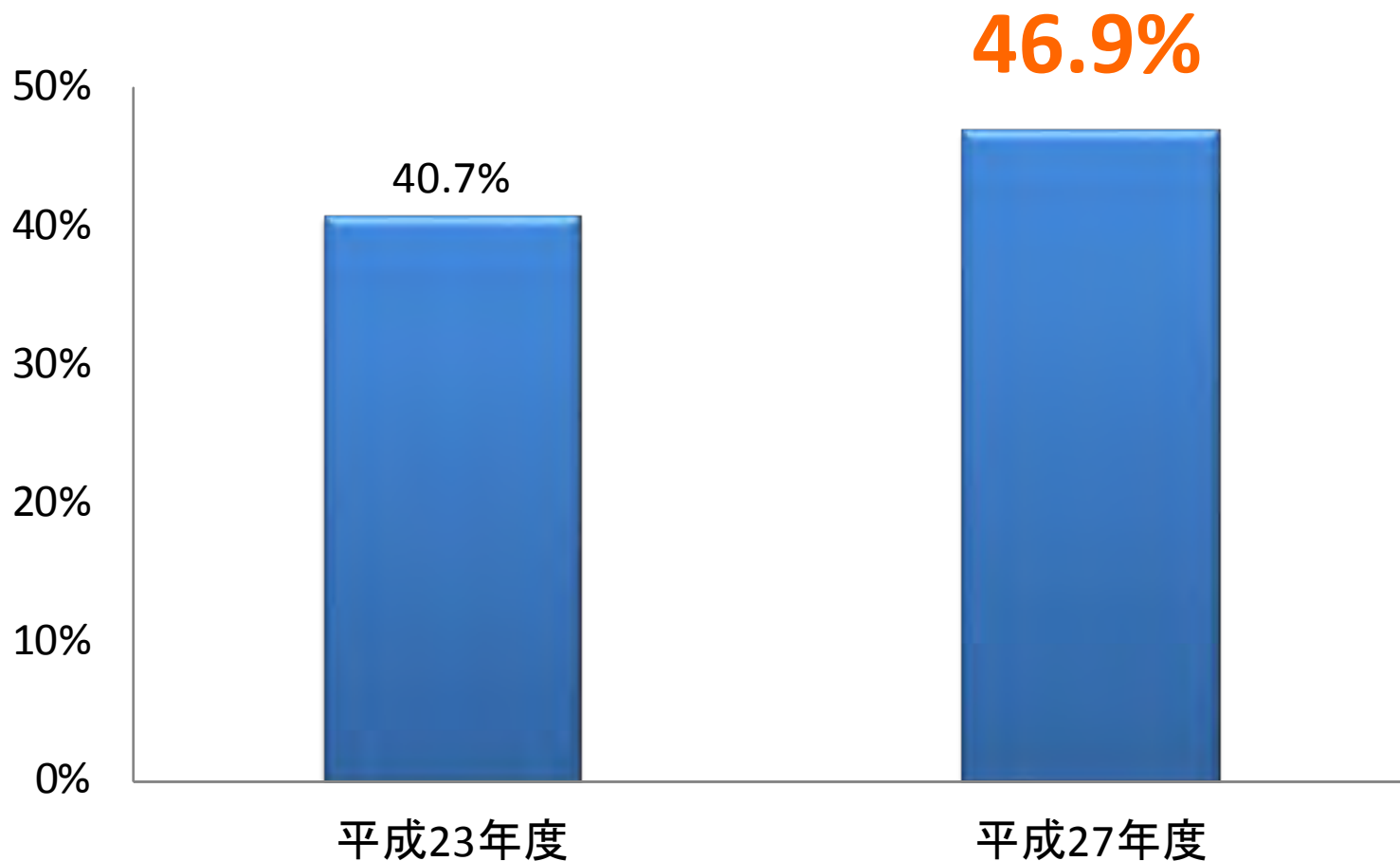
くまもと減塩美食メニュー



健康づくりできます店ガイドブック

■ 啓発・早期発見

CKDの認知度



■ 啓発・早期発見

⑦ 特定健診受診率向上への取り組み

- ・ 特定健診実施機関からの未受診者への**受診勧奨**
(国保実績：約36万件)
- ・ 国保特定健診受診案内様式変更
(腎機能注意書追加)

⑧ 腎機能評価のための**eGFR値算出促進**

特定健診の個人結果通知にeGFR値を記載する旨、各衛生検査所への働きかけ（8箇所中8箇所）

■ 発症予防・進行抑制

- ・ 熊本市C K D対策推進「**保健指導プロジェクト会議**」の設置
- ・ 各区保健子ども課におけるC K D予防教室の開催及び保健指導の実施
- ・ I C Tを活用した健康づくり支援
(H24-26年度) 参加：940人
 - *体重・歩数管理アプリ作成
 - *食事・運動支援コンテンツ提供
(週2回×12週)
 - *キックオフセミナー、講演会等の実施



食事・運動支援コンテンツ



気づける・学べる・楽しめる健康講座

■ 発症予防・進行抑制

- 熊本市CKD対策推進「病診連携医」登録制度の創設

CKD対策推進に賛同・協力するかかりつけ医の登録

病診連携登録医 334人

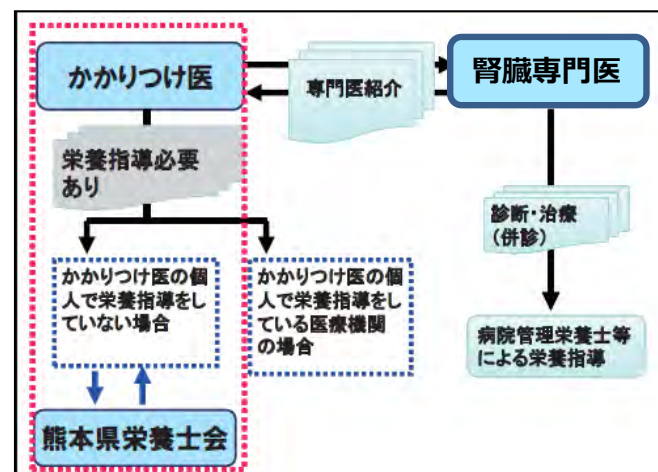
登録医療機関 269箇所（内科医標榜の67.9%）

- かかりつけ医と栄養士との栄養連携システム

管理栄養士のいないかかりつけの医療機関

でも栄養指導が行える仕組みづくり

H24~26実績 計 3,772件



■悪化防止

① 腎機能悪化者・重症高血圧・糖尿病者への受診勧奨

- ・ 国保特定健診結果に基づく受診勧奨

(CKD 2,668件 重症高血圧434件 糖尿病2,439件)

② かかりつけ医と腎臓専門医の連携システムの構築

- ・ 熊本市CKD「病診連携プロジェクト会議」の設置
- ・ 専門医紹介基準（市版）、紹介状・再紹介チェックシート様式の作成、
腎臓専門医の所属する施設リストの作成

- ・ 熊本市CKD病診連携説明会の開催

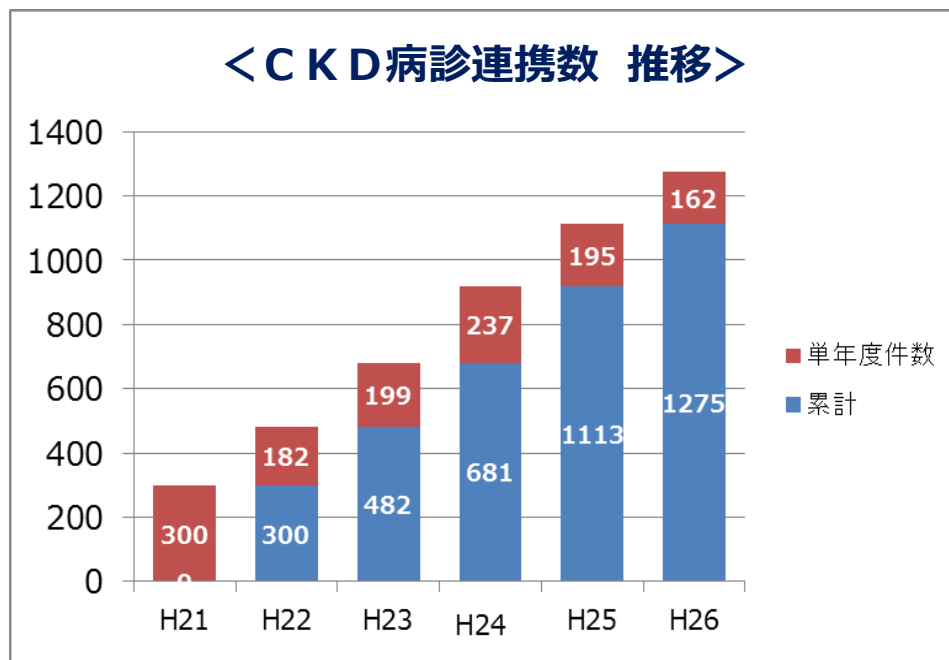
(16回 1,419人 (うち医師1,185人))



■悪化防止

③ CKD病診連携の推進

- ・ 病診連携医と腎臓専門医の連携数 **1,275件**
- ・ 熊本市CKD対策NEWSレターの発行
- ・ 市ホームページCKD啓発ページに紹介状様式、病診連携医名簿等を掲載



＜熊本市CKD対策NEWSレター＞

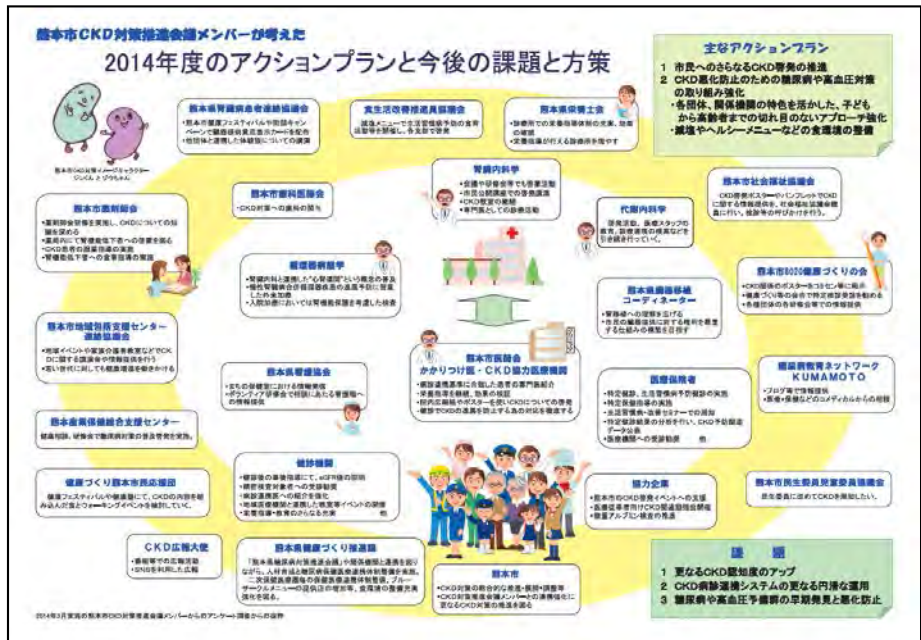


■ 推進体制の整備

① 熊本市CKD対策推進会議の開催

CKD対策推進のため、関係機関との連携、総合的な悪化防止運動の展開を行う

- ・ 開催：年1回（89団体）
- ・ 「アクションプラン」の作成（独自あるいは協働の取り組み）



② 熊本市CKD対策推進協力団体募集

協力団体18社 (H27.3現在)

〔協力内容〕

- ・積極的なCKD対策推進の啓発活動
- ・CKDの予防や健康づくりに関する情報提供
- ・その他熊本市のCKD対策の推進に関すること

③ 区役所単位の生活習慣病ネットワーク連絡会

- ・生活習慣病等の健康課題に関する情報共有、意見交換

メンバー：市医師会、区役所及び国保職員等

H23～H26 全18回 841人

④ コメディカル研修会

- ・医療専門職と情報共有、意見交換

メンバー：CKD対策推進会議メンバー（医療従事者）

全10回 709人

結 果

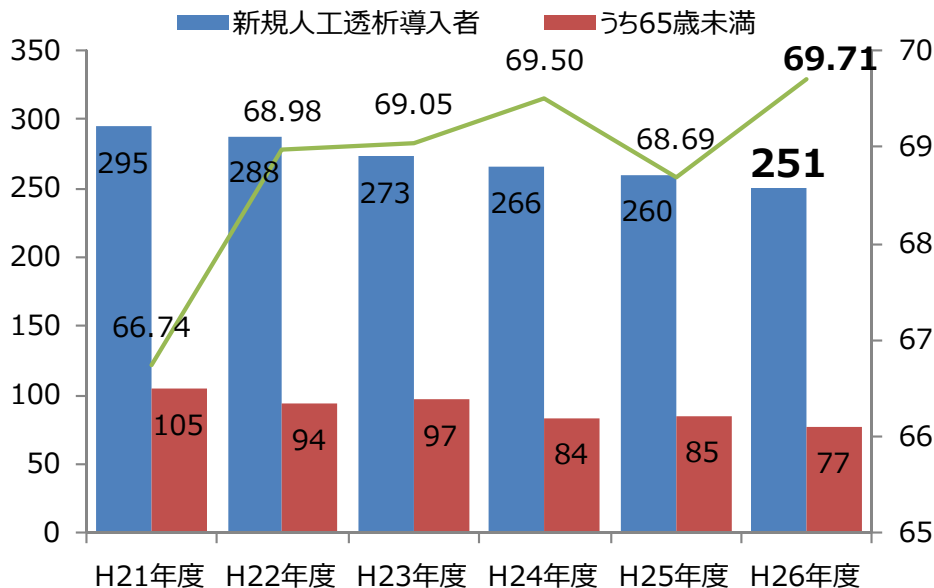
● 新規透析導入者

295人 (H21) → 251人 (H26)

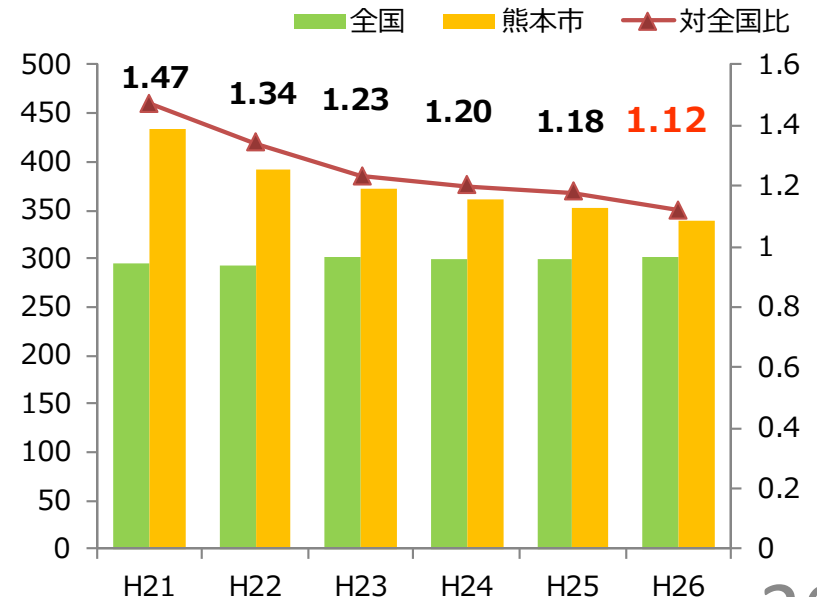
● 導入平均年齢

66.74歳 → 69.71歳 (H26)

■ 新規人工透析導入者と導入平均年齢の推移



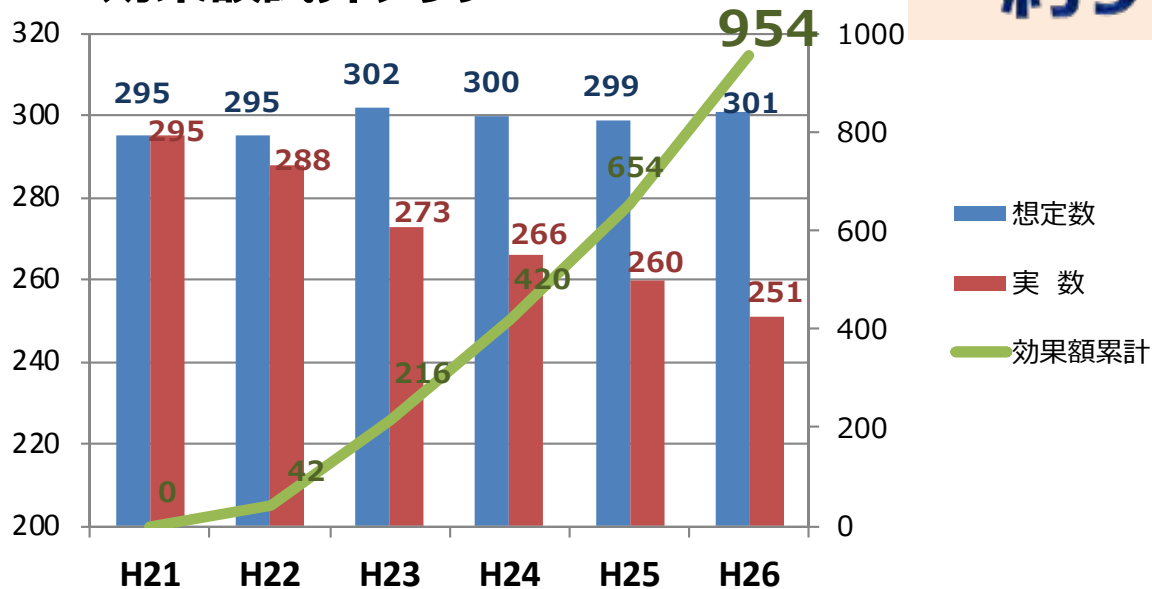
■ 新規透析導入者数割合 (人口100万対)



● 効果額試算

試算効果額は
約9億5千万円!!

効果額試算グラフ



※試算に当たっては、平成21年度の新規透析導入者：295人に国の新規透析導入者の伸び率を乗じ、平成22～26年度新規透析者想定数を算出。各年度の新規透析者実数との差を基に、効果額を試算。(新規透析費用は6百万/年と設定)

【参考：全国の新規人工透析導入者】（単位：人）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
全国	37,543	37,532	38,474	38,165	38,024	38,335
／伸び率	—	-0.03%	2.48%	1.66%	1.28%	2.11%



**熊本地震では九州のみなさまから
温かなご支援いただき、感謝申し上げます。
一日も早い復興を目指します。**